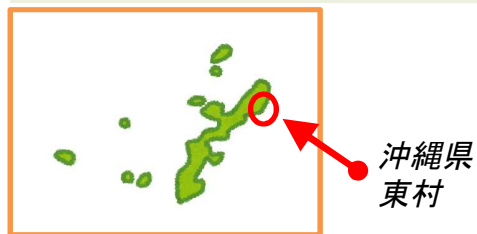


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28年度:計画作成主体:東村担い手育成総合支援協議会)(沖縄県)

取組の概要

対象品目 : 果樹(パインアップル)
(産地面積52.4ha)
主な取組主体: JAおきなわ北部地区パインアップル
生産部会東支部(農業者33人)
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
基準(H27年度) 105千円/10a
目標(H30年度) 116千円/10a
導入施設等 : 生産支援事業(日焼け防止防風
ネット資材の導入)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

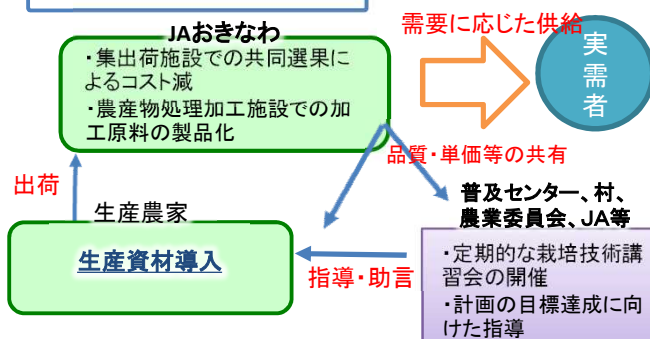
当該地区では村全域でパインアップルの栽培が盛んである。加工用・生食用ともに市場ニーズが高いが、日焼け果や風による擦れ等により、品質や出荷量にムラがあることが課題となっている。生食用及び加工用パインアップルのバランスのとれた生産拡大を図るため、粗放的な袋掛け作業を改良し、日焼け防止・防風対策ネット資材を導入することで販売額10%以上の増加を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

品質を向上させるための日焼け被害軽減・防風ネットの導入

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・東村チャレンジ農場パインアップル展示園の実施
- ・村単独事業により加工用原料への助成
- ・村単独事業による土づくりへの支援

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①被覆資材の活用による被害の軽減(品質向上)効果、出荷量の増

【事業実施による間接効果】

- ①生産ロットを確保したこと、品質が向上したことによる単価の上昇



販売額が15%増加
(達成率145.5%)

